

同窓会 会報

学芸



CONTENTS

- 対談、安永校長と……2
井内会長
- 学芸第2号の発行に際して……3
井内会長
- MY LIFE……4
懐かしのあの頃を語る
- 学園だより……5
- 同窓会行事……8
- 慶事……8
- 同窓会報……9
- 同窓会活動報告……9
- 平成7・8年度
基金実行名録……10
- 平成9年度同窓会
への基金につき
支援方を願い……11
- 同窓会決算報告……11
平成7年度
- あとがき……12
- 巻紙絵イラスト……12
作家プロフィール



1997
No.2

成器学園同窓会

大阪学芸高等学校をどういう学校にしていくか

大阪学芸高等学校 安永和夫校長先生と同窓会会長 井内博見との対談

●日時：平成8年11月27日 ●場所：高等学校校長室 ●同席者：副会長 上野寅次郎・学校同窓会会長 大矢隆史先生

会長 明日からしばらくオーストラリアの高校生が日本語や日本文化の勉強や親善交流に本校に来るようですね。

校長 明二十八日から来月の七日まで十日間、本校と数年前から姉妹校となっているニューサウスウェルズ州のキヤプスルヒル高校から男女十六名の生徒とジャフエ校長、日本語の先生のリチャードさんが来校することになっていきます。

会長 それはよいことですね。ずっとそういう交流会をもっているのですか。

校長 このように多くの生徒が一度にいくのは、初めてのことで、ジャフエ校長によれば、この試みがうまくいったらニューサウスウェルズ州全体にひろめたいと当地の教育委員会では考えているようです。今年は本校とドイツのボンにあるフリードリッヒ・エーベルト高校の二校だそうですね。

会長 ということは今回のキヤプスルヒル高校の来校はパイロットプランということですか。

校長 そうですね。ドイツへ行く生徒たちとは関西国際空港までは一緒にくるようですよ。

会長 いまや、企業活動も国際的になっていますので、若いうちから異文化の人々と交流の経験をもっておくことはよいことですね。

校長 現在は、オーストラリアだけではなく、将来はアジアや欧米にも姉妹校をつくらせて交流したいと思っております。

会長 それはよいことですね。ものごとを広い視野と複眼をもってバランスよく判断できる人間が必要な時代になっていますからね。

校長 おっしゃる通りです。

会長 ところで、この四月に校名を変えられましたね。内外の評価はどうか。

校長 校名が変わったということで、多少関心が持たれているようです。学校の方でも期末考査後も授業を行ったり、教育内容の一層の充実を図っておりますので、そんなことが好意的に受け取られているのかなと思っております。

会長 先生方も頑張っているのだと思います。それが評価につながっているのですかね。

校長 いま、生徒の急減期ということもあって、学校はきびしい時期を迎えておりますが、歴史の教訓によりますますきびしい時代こそ創造的なものが生まれてきておりますので、逆説的に言えば、本校発展のよい機会だとも考えております。



校長室にて

左から 大矢先生、安永校長、上野副会長、井内会長

会長 一般の企業でも、きびしい時期には思い切ったリストラを行う一方で創意工夫を凝らして市場経済の中で生き残れる特色を出したところが発展してまいりますね。

校長 教育というものは、人類が長年にわたって築き上げてきた文化遺産の継承とそれを発展させるための創造ということですか、そういう力をつくることな

のだと思います。学習を通して基礎学力を養うことと、もう一つ時代の要請、つまり、情報化や国際化などに対応できるような資質を養っていかねばならないですね。

会長 先程の異文化間交流なども国際化時代への一つの経験をたんでおくという事でしょうね。情報化といえは、最近パソコンなど情報関連機器が使えないと社会に出たとき不自由ですね。学校には新しいパソコンもたくさん入っているようですね。若い人はわれわれオールド・ボーイにはむづかしい機器でも直観的に理解して使えるようですね。

校長 担当の先生に聞いた話の一つですが、故障した機器を修理してきた業者がわからなかったものを、傍にいた生徒がこうすればよいのではないかと簡単に直したというのがあったようですね。

会長 若い人の中には、いろいろすぐれた個性をもっている人達がいるものですね。日本の教育は画一的で、つめ込み教育だとよく言われますね。それはそれなりによい面もありますが、各人の個性や才能も伸ばしてやれるような教育方法の開発も、中教審の答申でも指摘されているように、これからは必要なんですよ。これからの社会には個性や創造力をもったバイタリテイのある人が必要ですからね。

校長 いまの社会はレヴエルの高いので昔のように学校で習った知識をもって社会に役立てると言うようなことはほとんどできなくなっていますね。だから、学習で得た知識も大切ですが、柔軟にもの考える力というかそういう態度を育てていけたらよいなと考えるています。

会長 確かに、昔、成器商業学校時代には、社会に出てすぐ実践的に役に立つ

実務家の人材を養成していったと思えます。何年も前になりますが、ある本を読んで、「すぐ役に立つ人間は、すぐ役に立たなくなる」というのがありました。物事の本質の把握や歴史的流れという基本的なものの考察や学習がないと、今日のような変化の速い社会には対応できないでしょうね。

校長 では、そのような柔軟にものを考えられる能力というか、知性はどのようになれば育つのかというと、これが一番むづかしいことですね。さしあたり教師が学習を通じて生徒が達成感をもてるような指導を工夫しなければなりません。生徒たちの達成感が少しづつ発酵して彼等の自信につながって行くんだと思うんです。少々むづかしい事でも集中して努力すればできるんだという積極的な考え方や態度を育てていきたいと考えています。

会長 誰でも、得意・不得意はあるものですが、自信をもてるものをつくってやるというのは大切なことですね。人はそれを糧にして人生を積極的に生きていけるんですからね。

校長 そうだと思います。一つでも自信のもてるものがあれば、他のことにも少しづつ自信をもてるようになると思います。

会長 昨年四月に中学校をつくられましたね。中・高一貫教育を始めた背景には、少子社会における生徒数確保の問題があると思います。そういう中で大阪学芸高校のサバイバル（生き残り）作戦というのをどのように考えておられますか。

校長 まず、生徒が真からこの学校に来てよかつたなあと思える学校にならなければなりません。生徒にとっては、尊敬し信頼できる先生があつて、よい友達ができることでしょうね。次に、

保護者の期待でもありますが、生徒たちには知的な面でも、かなり高いものを身につけてやることだと思えます。また、本校には創立以来「徳器成就」という校訓がありますが、このことを再認識して、生徒に好ましい情操が育つよう意を用いることも必要ですね。いわゆる、知・徳・体の調和のとれた人間を育てようという思いです。

会長 知識偏重の風潮がある中で、それはなかなかむづかしいことですが、今の時代は、とくに、そういうことが必要ですね。

校長 学校が発展していくこと、変っていくには、私も教職員も変っていくかないといけません。いろいろな教育課題に直面し、苦しみ悩みながら自己啓発に努めることによつて私どもも教師として成長していくんだと思つています。生徒は教師のそういう後姿をみて育っていくんだと思います。

会長 そうですね。学校で習ったことはすっかり忘れていても、個性のある先生方や学校の雰囲気というのはいつまでも記憶に残っているものですね。学校に勢いがあれば、それは必ずと言ってよい程、生徒たちに反映していきますからね。……

このあとまだ一時間以上に亘り対談が続いたが紙数の関係で割愛せざるをえなくなつた。校長先生からは、「先生は教えることが楽しくてしょうがない。子供が好きだ」という感覚の必要を強調され、生徒が自ら進んで興味をもつて問題解決をしていこうという意欲をもてるような教育ができたら一番理想的だ」とも話された。このように母校に学ぶ生徒達にとつて、大阪学芸に入つて本当によかつた心感強く思ってくれる生徒達であふれるキャンパスを期待したい。

会報「学芸」第二号 発行にあたり

会長 井内 博見

成器学園の同窓生総数は平成八年三月末日現在二万七千三百五十一名になりました。生徒減少期に入つたため、一時七百名を越える卒業生を送り出したこともありました。今や四百名前後の卒業生に減つてきました。

同窓会の支部的組織としては東部成器会（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）等関東地区在住者によつて組織されている（はじめ住之江寿会、熊取成器会があります。これらに加えて平成九年度から、学園のお膝元の住吉区や東住吉区でモデル支部を作り、同窓会活動の活性化に資していきたいと考えております。

学校法人成器学園は、法人名はその仮残し平成八年四月一日より校名を成器高等学校から大阪学芸高等学校に改称し、同時に男女共学六年一貫教育の大阪学芸中学校を新設しました。初年度八十名の入学予定者を公表していましたが、出願者が四倍の競争率となり、優秀な受験者が多かつたこともあり百三十四名が入学しました。そのうち女子が五十一名です。

中学校は高校とは別の敷地で（道路を挟んで北東側）校舎を新築し、素晴らしい教育施設に恵まれていきます。昔の校舎を知る者にとつては今昔の感一入であります。

この様に母校が着実に発展していることに伴い、同窓会も漸次発展しつつあり、誠に喜ばしいことです。

今回「学芸」第二号を発行するこ

とになり、同窓生の心のふるさとである母校の近況をお知らせできますことを大いに喜んでおります。同窓生全員のうち連絡可能な方は約一万六千人です。全員に会報を配布しますのに多大の郵送費を要します。郵送費だけでも同窓会の経常収入が消えてしまう状況ですので学園に無理をお願いし昨年度は会報作成費及び郵送費合計約三百万円のうち二百万円を負担して頂きました。今年度は今後はご無理をお願いしない約束で百万円の支援を仰ぐことになりました。学園経営が厳しい環境下か、る多額のご支援を仰ぐことは誠に心苦しく思い、平成八年度より同窓生各位より特別年会費として毎年二千万円をご負担願ひ、財政の一本立を計ることとしました。

これとは別に同窓会基金事業部の行う募金活動は引き続き実施し、同窓生各位の同窓会活動に対する自発的ご支援として一口一万円、口数制限なしで（ただし事情により一口単位に達しない場合でも喜んで）お受け致しますので、同窓会の財政事情ご賢察賜わり、あらん限りのご協力、ご支援をお願い申し上げます。

会報第二号発行が多分にご寄付依頼の内容となりましてことをお詫び申し上げますと共に控えてよろしくお願ひ申し上げます。

母校の発展は同窓生にとつて、自分の喜びであり、共に歩む同窓会もその喜びを噛みしめながら、母校への一層の協力を惜しまず頑張らねばなりません。





一瞬目を見張る 感激一入

飯田 八四郎 (二期三十一期卒業)
〒210 川崎市川崎区小田三十一番五十三
洋光産業株式会社代表取締役

平成二年五月三十一日付け朝日新聞の夕刊にて、昭和十六年度卒業生同窓会の案内を見て、一瞬目を見張る。これが動機にて、前同窓会々長故山田政次郎様の度々御案内を頂戴いたしました。東部成器同窓会に初参加する事が出来ました。前会長故谷本 正様はじめ、同期の阿部君、油谷君、故寺内君ともお会いでき、他の皆様からも歓迎のお言葉を頂き、遠くより故山田政次郎様、前校長野田和男様、前衆議院議員和田貞夫様の御参加をお願いしまして、感激一入、深きものあり、益々の御発展をお祈りします。



恩師と共に生徒を育てて

大矢 隆史 (高校十七期卒業)

〒508 大阪市住吉区長国西二一五二二
大阪学芸高校教員

成器学園を卒業してはや三十年余りが経過しました。大学を出てストリートで母校にもどり英語を教えるかたわら、空手道部を創設し二十七年が過ぎました。母校に奉職した時は、多くの恩師に囲まれて暖かいアドバイスを戴いたり、ノウハウを教えてもらったりして本当に有り難く思っております。その恩師の方々も年々退職していかれ、気が付くと自分自身もあと十年で退職ということになってしまいました。残された日々を母校「成器学園」の発展のために捧げたいと思っております。



建学精神「徳器成就」を偲ぶ

高田 勝美 (高校九期卒業)

〒504 大阪府泉南郡熊取町大字五門一〇九五一
大阪府議会議員

昭和三十三年に卒業して四十年。平成七年四月に府議会議員に当選させて戴きました。同窓生のよしみに感謝申し上げます。私は高田タオル様を経営して二十二年に成商で学んだ簿記・会計が厳しい経営の中、大きく役立つと実感しています。さらに、当時の鈴木真一郎校長の教訓の中で実社会で生きていく上で簿記の原則である「バランスのとれた生き方を大切に」を座右の銘にしています。私の今あるのもそのお陰と感謝しています。



成器魂を大いに発揮

友田 博文 (高校十八期卒業)

〒500 大阪府和泉市下宮町三二八
和泉市議会議員

私は、昭和四十一年卒業生の和泉市の友田博文でございます。卒業して早や三十年になります。この間、世の中が大きく変貌し特に最近、大学への進学率と就職難が時代を象徴しており、また成器高校も大阪学芸高校へと校名が変更され、更なる飛躍を目指されるものと確信しています。さて、私は昨年「N.T.T.在職三十年勤務表彰」又、本年は和泉市議会議員選挙では三期目を上位当選させて頂きました。これも偏に母校を始め、成器同窓会の皆様方のご支援の賜ものと感謝いたしております。今後「成器魂」を大いに発揮し、多様化する市民ニーズに応え、市民に喜ばれる政治が行われるように、市議会議員としての立場で誠心誠意邁進していく所存であります。



阪神大震災と私

藤田 光雄 (高校二期卒業)

〒650 神戸市灘区山田町三二一〇一六二〇二
有限会社藤田ビザハウスF経営

あの大地震発生時、一瞬何が起こったのか、全くわからなかった。上下に続く横ゆれと「ブーン」と言う地鳴り。家中の物は倒れ、身体は下敷きになっていく。這う様に出る程だった。外は信じられない光景。倒れた家屋と迫る火の手。地震絵図を見ている程だった。あれから二年。神戸は復興したと名ばかり。現実はまだに空地が目立ち、経済的にも大不況。私も二店を失い大痛手。でも残った二店舗を中心に、必死に立直る努力をしています。私も大阪の人間、成器魂で頑張ります。落込んでいた時に、手を差し伸べて下さった人々の親切は、生涯忘れられません。私も残り少ない人生を一人に親切、自分に厳しくをモットーに、精進して行くつもりです。



時の流れと同窓会

平尾 満 (高校十二期卒業)

〒500 大阪府西区九条南四一〇二二〇
株式会社平尾商店 代表取締役

成器商業を卒業して社会人となって早いもので、もう我が人生の半分以上が過ぎてしまった感じがする。同期の学友達は今頃どうしているのだろうか、最近懐かしく思う。機会を作り皆んなと青春時代の楽しかった事、悪をした事等久しく話したいと思う。古巣学園に集まり今は昔の面影はないが、現在の新校舎のすばらしい学園で歴史を語りたものだ。私は柔道部で鍛えた体力に鞭打って、ねじ販売の会社を経営している。楽しみは「ゴルフ」「酒宴」である。卒業生の方々を一人でも多く知り、語りあう事を楽しみにしている。



百周年に 向って考える

学校法人成器学園

理事長 足立 好一

二〇〇三年には百周年を迎える。本学園も過去幾多の問題点がありましたが、歴代理事会の正しい方針と実行力、またそれを支えていただいた学園関係者の理解ある協力の結果、外観、内容共に今日の姿があります。

しかし現在の到達点を安易に考えて続けるのであれば、豊かで実りの伴う成長は望めなくなると思います。

これから数年来の生徒減少期についての対策は、いかにして生徒数を安定して確保するかは、学園運営上是非でも守らねばならない生命線であり、それ故に中学校の設立と同時期に学校名の変更、共学制の実施、教育施設の新設・増

改築等幾多の方策を計画実行してまいった次第です。

しかし学園が今後よりよい方向へと指向するには社会全体と共通する諸問題も抱える事にもなります。社会内外の重んぶ現象、指導的な立場にあるべき機関に於ける不正なる事象、これはごく一部の方々と思われませんが決してあつてはならない事例ばかりです。

事物には美しいと言う表現があります。様に、その美しさに向って一歩一歩進んで行くことにより自然と解け合つてゆきます。美しさとは即ちご承知の如く均衡のとれた具現を表わすものです。間違わずに調和を保ちつつ、人心にあつては常に暖かく、事物にあつては、その存在感覚を高める様に考えて参りたいのです。

特別な事を成す可く、特別な事を考え、それは所謂徒勞に走るばかりで実るところがなく逆現象が出るばかりです。しかし決断はしかるべき時点で行わないと何時にあつても振りかえつて見れば躊躇遑遑に外ならないものです。

常に主体性をもって進み、ある時には客観的にものを眺めて見る心の余裕が欲しいものです。何時にあつても不遜性を帯びて、普通にものごとを考えたいものです。

本学園も百周年に向って進んで参りますが、江潮の皆様が一緒に名実共に学校法人成器学園・大阪学芸高校・大阪学芸中学校でありたいものです。

学校法人 成器学園

創立百周年記念誌発行

創立百周年記念誌編集委員会

委員長 仲西 晃

(学園理事)

明治三十六年に、故遠藤三吉先生によって大阪浪速の地に創設された本校は今日まで、輝かしい歴史と伝統を育み築いて参りましたが平成十五年にめでたく創立百周年を迎えるはこびとなりました。

これ偏に歴代の教職員の先生方が、本校開校の「社会の中堅人物を養成する」という使命を守り育んで頂いたからこそ、感謝申し上げる次第です。誇るべき百周年記念を迎えるに当たり、過日開催されました理事会におきまして記念事業委員会、設立発足が承認され、その事業の一端として成器学園創立百周年記念誌を発刊する事になりました。これにより百周年記念誌編集委員会(委員会)が組織され、不肖私が委員長の大役を仰せつかる事になりました。

この意義深い百周年を機に、過去百年の歴史を顧みて、輝かしい足跡を改めて訪ねてみる事により、二十一世紀への飛躍の大きな節目となる事を願ひ、記念誌発刊に微力ながら努力する所存であり、ここに学園教職員諸氏はもとより二万余名の卒業生・PTA皆様方の絶大

なるご協力を賜ります様お願い申し上げます。

さて、一口に百年といいますが、百の字が示すようにその歴史は永い長い道程で、栄枯盛衰の世の常本校もけつして良い時代ばかりではありませんでした。

「徳器成就」を建学の精神の礎に、成器商業学校として現在の浪速区に産声をあげましたが、その後日に日露戦争が勃発しました。我が国が勝利し比較的良き時代が明治の後半から、大正・昭和の初期迄続きました。勿論当時の中等学校教育が今日の様に多くの子弟に開かれた時代ではなかったこと故、私学経営はそれなりに難しい時代でもあつた事と推されます。

そして昭和十六年、第二次世界大戦の宣戦布告、悪夢の時代に突入する事になり、世の中は教育どころでは無くなり、世の中は経験したことのない敗戦に見舞われましたが、その敗戦を契機に時代は大きな変革期を迎えました。浪速区より焼け出され、僅かに残る長居校舎に身を寄せ、戦後教育のスタートをきる事になりました。

皮肉にも、敗戦により得られた民主主義により新しい教育の時代がやって参りました。

学園関係者のご努力で、新制高等学校としての存続の危機も耐え忍び、順調に発展し、飛躍しようとしたその矢先の昭和四十七年、例の泉北三木の山林事件が起りました。

これで、成器も終わりかと危ぶまれるほどの重大な事態でした。しかしこの最大の危機も、教職員・卒業生等々の皆さんのご尽力とご協力のお陰で、なんとか乗り切ることができました。

その危機を乗り越えたという経験は、何ものにも勝る、得難い貴重な宝物となりました。

この成器の灯を消してはならないと結集された力が実を結び、更に成長し、新校舎の建設・中学校の併設等の発展に繋がったものと確信します。

現在学園は、校名も大阪学芸高等学校と変わり大阪学芸中学校が併設されました。悠然と立ち並ぶ、校舎の偉容を見るとき、時代の流れと百年の歴史の重みをひしひしと感じさせられます。

この意義ある創立百周年を迎える喜びを関係者の皆さんと共に、分かち合う事の出来る日を楽しみに記念誌編纂委員全員が協力し、立派な百年誌を完成することを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



百周年記念募金事業

ご賛同とご協力を!!

百周年記念募金事業委員会

委員長 岡本 利雄

(学園理事)

このたび、はからずも百周年記念事業委員会・募金事業委員長に任ぜられました。まことに微力ではございますが、同窓会の皆様方をはじめ、同窓関係各位のご協力を得まして重任を果たしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、成器学園は、明治三十六年(一九〇三)に創立され、その歴史が始まって以来、平成十五年(二〇〇三)には百周年の意義ある年を迎えます。

創立当時の背景は、近代国家建設を旨として、教育熱心が強く発揮された時代でした。明治政府がいかに教育に力を入れたかは、その予算を見ても海外留学関係支出が教育予算の八分の一、国家予算の二・二%にもなったこと、また当時の旧制中学・高校の生徒の英語の学力は現在と比較しても非常に高かったといわれています。

教育の成果はすぐにはあらわれるものではなく、五十年、一〇〇年の計といわれる通り、明治時代の教育投資は戦後日本の成長と繁栄の原動力となりました。

そこには、しっかりとしたビジョナリー(先見・未来志向)があったということだと思います。

一方、国際的な背景をみると、一九〇三年にアメリカの自動車会社フォードが設立された年であり、自動車産業もわが校と同様やがて一九〇〇年を迎えます。

一九〇〇年、一九〇八年にかけてアメリカでは多くの自動車会社が誕生しました。

しかし一九三〇年代後半には大恐慌とともにフォードも大打撃を受け、倒産寸前の状態になりましたが、「自動車を大衆の手」にという目標に社運を賭け、一九八〇年代には驚くほどの業績回復を達成し、世界に消えることのない足跡をのこしています。

フォードと学園の歩みを同一視するつもりはありませんが、その共通点は創立者や経営者が基本的価値観(基本理念)をもって経営に当たっていることにあるのではないのでしょうか。

明治・大正・昭和・平成の四代に互り、多くの動乱と急激な社会変化の中でも、現状に満足せず、常に希望をもち、課題に挑戦された幾多先人の努力と、その集積が、現在に存在しているという意義を持つているのではないのでしょうか。

来るべき二十一世紀の、さらなる学園

の発展に向け、本委員会では記念すべき事業計画の一端を担う決意です。

委員会の事業の目的の概略は次のような点にあるかと思えます。

- (一) 学園が発展するための知育環境整備拡充事業の企画・立案
- (二) 百周年記念メモリアル施設・設備の企画・立案
- (三) 記念事業遂行の土台となる募金事務の企画・管理・運営

なお、参考の為に今年四月に百周年を迎えられた大阪府立三國ヶ丘高等学校の内容を紹介させていただきますと

- (一) 記念事業
- (二) 会館の建築
- (三) 教育文化基金の創設
- (四) 記念メモリアル製作
- (五) 同窓会基金の創設、等が実施されています。

当委員会におきましても、学園関係各位の総意と協力のもとに事業を推進いたしますので、何とぞご賛同ご協力いただきますようお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。



平成一〇年度国際コース(仮称)

の設置にむけて

大阪学芸高等学校

校長 安永 和夫

二十一世紀という国際化が一層進展していく時代に、幅広い視野をもち、世界の国々の人々と協調して平和で真に豊かな時代を創造していける資質をもった人間の育成は、今日の学校教育における重要な課題の一つです。

本校においても、この課題を本校教育の充実・発展の方向と結びつけて考えていくことが必要です。このため、平成八年度にスタートした男女共学の六年制中・高等学校のコースも視野に入れて、平成十年度に、男女共学の国際コース二クラスを新設する予定です。その位置付けは普通科のコースとして、専門学科のものに匹敵するような充実した内容をもつカリキュラムにしたいと考えています。現在、公私立の関係学科やコースをもつ学校の経験に学ぶため、当該校を訪問し、鋭意調査研究をすすめております。

一方、本校は数年前からオーストラリアへの修学旅行も実施し、ニュージーランドのウエルズ州のキャッスルヒル高校と姉妹校提携をし、修学旅行の一環として、姉妹校とその周辺のいくつかの高校とも交流してきています。さらに、昨年度から

はニュージーランドのギズボーン市にあるタイラフナイ・ポリテクニク(大学)で二十日間の語学研修プログラムをもスタートさせました。これはホームステイによる異文化体験をベースにしたもので、午後には当地のギズボーン高校とも交流しています。

二十一世紀は、ものの資源だけでなく知的資源も重要な役割をする時代であることから、しっかりとした基礎学力、主体的な判断力、豊かな人権感覚をもつ人物の育成が必要です。国際コースのカリキュラムは、基本的な教科、科目の他に、問題設定能力、多様な方法を駆使できる柔軟な知性、主体的な判断力など新しい学力観に基づく諸能力の開発をめざすカリキュラムが必要です。したがって、教職員もまた、過去の経験を総合しつつ、新しい理念の具体化をめざし、このコースの設置に向けて新しい指導方法の開発に取り組んでいるところです。



大阪学芸中学校の

現状について 誕生、九ヶ月

学園理事 渋谷 和彦

成器学園が新たに「中学校をつくらう」と取り組まれたのは、私学のおかれたきびしい情勢のなかで大きな決断であったと思います。

河南町総合グラウンドの取得にはじまり、新しい校名・校章・スクールカラーの決定。そして中学校校舎の建築と着々と準備を進められました。また、男女共学・六カ年一貫の教育で進学校としてのスクールアイデンティティを確立するためのあり方について検討を重ねました。本校がめざす教育を達成するために、これまで二年かけて、何をどのように進めるか、いゝろんなプランを組んできました。

平成八年新しい校舎に、新しい生徒一三四名(男子八三名・女子五一一名)を迎え、入学式を行いました。以来、毎日毎日が創造と考えてきたことへの検証の取り組です。学習面では週三九時間、十六時間の特別授業とや、ハードなスケジューリングですが、分割授業、月例テストと、いろいろ生徒の学習状態を把握できるよう工夫しております。先生方の熱心な指導のもとに、眼を輝かして取り組んでいます。また学習方法でとまどっている

者もおりますが、それぞれの能力を発揮できるよう努力しております。四月のオリエンテーションにはじまり、スポーツ大会、フィールドワーク、林間学舎(大山)、夏まつり、演劇鑑賞、クリスマス、音楽会と毎月行事を行ってきました。回を追うごとに大阪学芸中学の生徒として自主的に行事を計画実行することができるよう成長しております。私たち教職員はこの一年の学習指導・生徒指導・行事等再検討し、二年次への取り組みについて努力をつみあげていきます。対外的には、昨年の第一回のプレテストの成果をふまえて、本年度も第二回のプレテストを十一月二十三日を中心として行いましたが一〇五四名の受験者があり、受験生の保護者および関係者に、本校の存在が認められ、大きな期待が寄せられているものと考えております。これから九年度の入学試験・二年次の生徒受入れについて具体的な進行を期待しているこの頃です。

大阪学芸中学が初期の目標を達成し、大きく成長していくためには、中・高の協力が絶対に必要なものであり、現在の大阪学芸高校ともども競い合って築いていかなければ、新しい大阪学芸中学・高校の将来はないと思います。

これまで学園・学校の新しい取り組みについて、ご理解をたまわり、ご支援をいただきました皆様に感謝しております。今後とも、一層のお力添え、ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

同窓会 行事

同窓会は毎年三大行事を開催しておりますので、是非ご参加下さい。

平成八年度 同窓会定期総会開催

平成八年四月二十日(土)午後二時より学園本館一階会議室にて、約六十名の出席を得て定期総会が開催された。出席者の顔ぶれは大正十四年卒業の伊丹啓次同窓会名誉会長といった大先輩から、平成の卒業生まで各層にわたっているが既して年輩の同窓生が多かった。

学園を代表して足立理事長のご挨拶があり続いて、学校長安永和夫先生の学事報告があった。この後総会議事の審議に入り、各議案すべて全会一致で承認可決された。この総会では今年度から特別年会費一人金二千円を毎年納付して頂くことに決まった。

総会終了後、長居パークホテルへ会場を移し懇親会が開かれた。学園のギター部、空手道部の模範演奏や演技が披露され、和気藹々の雰囲気の中、楽しい会話が交され、旧交を温め、来年の再会を約して散会した。

高野山参拝一泊旅行

大阪での暑さがピークになる七月下旬から八月上旬の間の土曜日、日曜日に毎年高野山参拝の一泊旅行を企画し、実行しています。

昨年は八月三日・四日の両日に同窓会関係者三十名にて高野山普賢院に宿泊し精進料理で会食、翌朝六時から御勤めがあり、朝食後授戒堂、金剛峯寺参拝、借

切バスで一ノ橋口下車、観光案内人の女性から、諸大名や、武將、高僧、文人、庶民に至るまで様々なお墓の説明を聞き見ながら、奥の院まで約二キロメートルを散策。英霊殿入口に故森寛紹翁の「涼しさや奥の院まで取もなく」の句碑を拜見、真夏の太陽はこの聖地においても結構強いが夜分は本当に涼しく、生気を取戻した気分だ。今年も八月二日・三日に予定していますので、奮ってご参加下さい。



高野山参拝旅行参加者



句碑

平成八年度秋季懇親会開催

平成八年十一月九日(土)ニューミューンへン南大使館で五十名余の参加の下賑々しく開催されました。当日は足立好一理事長をはじめ安永和夫校長、鍋谷安宏教頭先生他の先生方、同窓会の方からは

伊丹啓次名誉会長、和田貞夫前衆議院議員で同窓会顧問、井内同窓会長以下役員各委員、渡壁辰夫、太田隆之、山本英雄の各元校長、高野光男同窓会顧問、吉田末廣住之江寿会会長等々多数の出席を頂いた。

理事長、校長の挨拶に次いで、来賓として和田、高野両氏の挨拶の後、最長老の伊丹名誉会長(大正十四年卒一部二十期)がお元氣な声で乾杯の音頭をとられ、懇親会はいともなごやかに進化した。アトラクションでは中田ナナ、ピカルの方才、コロンビア所属の歌手林田麻友子さんの歌、ニューミューンへン大使館の取締役上杉歌子さんの日本舞踊等で会場の雰囲気は大いに盛り上った。

午後八時前、全員で新旧両校歌を合唱し、田仲副会長の閉会の挨拶で楽しい懇親の夕は幕を閉じた。
尚当日は昭和二十年卒業(二部)の次の三氏に安永校長から五十二年ぶりの卒業證書の授与があった。
種田正雄、古川健三、畑慶三の三氏

慶事

叙勲を受けられた方

同窓会にご連絡頂いた叙勲関係の方は次の各氏です。

勲二等瑞宝章 和田貞夫氏、前衆議院議員 (昭和19年卒 一部39期生)

平成7年4月の叙勲
勲三等瑞宝章 中島家綱氏、元労働省 (昭和10年卒 2部21期生)

平成3年4月の叙勲
勲三等瑞宝章 久保哲男氏、元裁判官 (昭和14年卒 2部25期生)

平成3年4月の叙勲

訃報

ご逝去の通知をいただいた方々のお名前と卒業年次を掲載し、故人のご冥福を祈るとともに同窓生各位にお知らせします。(敬称略)

勲四等旭日小綬章 山田幸男氏 (昭和20年卒 一部40期生)

奈良地家裁調停委員 平成8年11月の叙勲)

正六位勲五等瑞宝章 故渡部安司氏 (昭和20年卒 2部31期生)

元東大阪市立石切中学校長 平成8年11月7日逝去 同年12月3日公表

和田 正幸(昭和9年 一部29期)	(8.2.10)
武内 義温(昭和12年 一部32期)	(5.9.19)
梅辻勇太郎(昭和9年 二部20期)	(8.2.21)
小谷 益一(昭和17年 一部37期)	(8.4.8)
中村健太郎(大正11年 二部8期)	(7.7.15)
勝山 要(昭和3年 一部23期)	(8.4.7)
加賀 正行(昭和10年 二部21期)	(8.8.26)
辻 正信(昭和11年 一部31期)	(8.6.)
宮川 稔(昭和34年 高校11期)	(8.3.12)
遠藤 慎吾(旧校生)	(8.7.18)
植野 順造(昭和21年 一部41期)	(7.12.30)
峯 竹千代(大正12年 一部18期)	(7.11.29)
平野 昭二(昭和20年 一部40期)	(7.3.19)
広瀬 勝彦(昭和24年 一部44期)	(8.5.14)
菊井 源次(昭和4年 二部15期)	(6.)
堀 光孝(昭和4年 二部15期)	(7.9.8)
山田政次郎(昭和10年 二部21期)	(6.9.20)
中村吉太郎(元教員)	(8.1.)
金山 敏夫(昭和8年 二部19期)	(7.1.12)
川瀬 孝(昭和8年 二部19期)	(6.12.14)
川本 敏雄(昭和8年 二部19期)	(8.6.14)
寺島長兵衛(昭和8年 二部19期)	(7.12.16)
山本 俊男(昭和8年 二部19期)	(7.1.24)
宮崎 輝世(昭和25年 高校2期)	(8.5.9)
渡部 安司(昭和20年 二部31期)	(8.11.7)
井川 忠三(昭和7年 一部27期)	(8.11.20)
山崎 勲(昭和9年 一部29期)	(8.11.12)

同窓会組織の改革について

組織部

組織部では同窓会の更なる発展と向上の為に、組織委員会を度々開き、役員会に提案審議し賛同を得ながら取り組んでおり、そのご報告をさせていただきます。

一、組織の現状について

旧体制より組織の合理化が進んでいくが、会長の提言する各部署での独自の活動と取り組みがまだ不十分と見られる。会長に雑用的仕事まで集中し、役員もそれを当然のごとく甘受しつつある。そして、役員と仕事の分担や責任が曖昧に成りつつあるので、組織部は以上の現状を打破し、軌道の修正を図る為に組織の見直しを提案する。

二、組織改革の目的について

- (1) 同窓会の大きな発展のため。
- (2) 有効会員(連絡可能な会員)約一六、〇〇〇名に毎年発行する、同窓会会報誌「学芸」の諸費用の調達と節減にも関連する。
- (3) 学園と同窓会に関する情報と連絡をスムーズにとる事が可能になる。
- (4) 学園同窓会、地域別同窓会、同期同窓会、クラス同窓会、クラブOB会等の繋がりと位置付けが明確になる。
- (5) 総会・春・秋の懇親会・役員会等の同窓会行事の参加者を増やす事が出来る。
- (6) 地域での交流と親睦が深まり、生徒を送る等学園の発展にもなる。

三、組織改革の具体的方策について

- (1) 第一期組織改革(平成八年)
① 同窓会本部の部署と役員及び行事と仕事の分担・責任を明確にする。
② 内外から多く役員に該当する人を抜擢・登用する。
- (2) 第二期組織改革の準備に当たる。
- (3) 第二期組織改革(平成九年)
① モデル支部を地元在住吉区・東住吉区に作り、現役員が中心となり研究する。

同窓会活動報告

(平成八年4月～平成九年1月)

- ① 既成の成器会(東部・住之江・熊取)をてこ入れし、支部化する。
- ② 同期同窓会(成器39会等)・クラス同窓会・クラブOB会等の会長を本部の支部幹事に抜擢し、同窓会本部に組み入れる。
- ③ 第二期組織改革の準備に当たる。
- ④ 第二期組織改革の準備に当たる。
- ⑤ モデル支部を大阪府下全域に拡大する。
- ⑥ 各支部の会長を支部幹事に抜擢し、同窓会本部に組み入れる。

- 平成八年5月19日(日) 野球場OB会 藤田光雄幹事長出席
●平成八年5月31日(日) 午前8時30分 大阪学芸高校体育祭
●平成八年6月29日(日) 午後3時～5時 井内会長、米田副会長出席
●同窓会役員会 19名出席
●平成八年6月29日(日) 午後3時～5時 同窓会役員会 19名出席
●秋学期定例懇談会について(平成八年11月9日付開催に決定)
●同窓会報「学芸」第2号発行について
●平成八年6月29日(日) 午後5時～8時 新役員懇親会 出席者19名
●平成八年7月12日(日) 午後5時～8時 組織委員会開催 出席者5名
●同窓会組織について 於道頓堀ホテル
●平成八年7月20日(日) 午後3時～5時 役員委員会 出席者13名
●同窓会報「学芸」第2号の発行について
●同窓会報「学芸」第2号の発行について
1997年2月発行を決定
●組織委員会開催
●秋学期定例懇談会
●その他
- 平成八年7月29日(日) 6時 バドミントン部インテークハイ出場壮行会 於長居パークホテル 井内、米田、大矢出席
●平成八年8月3日(日) 午前9時 高野山善賢院一泊参拝旅行 出席者29名
●平成八年9月22日(日) 午前9時 大阪学芸高校文化祭 井内、米田、大矢出席
●平成八年9月28日(日) 午後5時 組織委員会 出席者5名
●組織改革について
●平成八年10月5日(日) 午後2時～5時 役員会開催 出席者18名
●平成八年10月9日(日) 午後6時 場所 ニュー・コミュニケーション南大使館
●同窓会報「学芸」第2号の発行について
●会報作成委員会として、井内、上野、田中、米田、久米、松田、倉谷、友田、平尾、北村、橋本、寺下、田中(敏)、大引、大矢の各氏に委嘱する。(順不同敬称略)
●組織委員会開催
●同窓会の発表
●その他報告事項
- (高野山参拝旅行 出席者29名
●企画委員長友田博文氏、和泉市議 3期目当選)
●平成八年10月15日(日) 午後2時～3時 学園湖上事務理事、安永校長と同窓会長及び田中副会長とで面談。会報「学芸」第2号発行に際し学園からの財政支援を懇話
●平成八年10月25日(日) 会報作成委員会開催 於道頓堀ホテル 出席者10名
●編集方針、広告募集等打合せ
●平成八年11月8日(日) 会報作成委員会 於学校 会報作成状況チェック
●平成八年11月9日(日) 秋学期懇親会 参加者50名 於ニュー・コミュニケーション南大使館
●当会場において、昭和20年卒業(2部)の次の三氏に安永校長先生から51年ぶりに特別に卒業証書の授与が行われた。
●種田正雄、古川健三、畑三郎の三氏
●平成八年11月16日(日) 午後5時～8時 東部成器会総会 出席者13名
●於メーテール千正屋本店(日本橋) 学校から安永校長先生、同窓会から井内会長が出席
●平成八年11月27日(日) 安永校長先生と井内同窓会長との会報へ掲載する予定の対談が午後2時から約2時間行われた。同席者として大矢隆史先生と上野寅次郎副会長が出席した。
●平成八年12月4日(日) キヤッスルヒル高校、ジャックフェ校長とリチャード先生歓迎夕食会開催。安永校長、大矢先生、井内同窓会長が出席した。
●平成八年12月5日(日) キヤッスルヒル高校生徒16名と同校校長と先生1名計18名のお別れパーティ開催。学校からは安永校長先生、方、ホームステイに協力した父兄及び多数の生徒が出席。同窓会からは井内会長出席。
●平成八年12月17日(日) 校租祭に同窓会から伊丹名譽会長、川村三郎顧問、井内会長、大矢先生が出席した。
●平成八年12月21日(日) 同窓会役員会 午後4時から約1時間 出席者13名
●議案 会報作成状況の報告、学園で準備を進めている百年史編集委員会及び百周年募金事業委員会へ同窓会を代表して、委員送り込み人選について、前者には上野副委員長、後者に松田、久米副委員長に決定。
●平成九年1月18日(日) 同窓会役員会及び新年会 出席者26名 於道頓堀ホテル
●議案 会報進捗状況、定期総会、高野山参拝一泊旅行、その他

温かいご寄付に感謝

寄付金応募者ご芳名録

成器学園同窓会・募金事業への
ご支援を本会報を通じ、同窓生の
皆様にお願いたしましたところ
多数の皆様からご寄付を頂戴いた
してまいります。ここにご芳名を掲
げ深く感謝の意を表します。

●平成七年度入金分(平成七年四
月一日～平成八年三月三十一日ま
で)
●平成八年度入金分(平成八年四
月一日～平成八年十二月三十一日
までの分)
(到着順)

白土 実様昭和10年卒(茶屋島ひらる会)
北村 勝行様昭和14年卒(堺市)
北村 清様昭和14年卒(堺市)
北村 博様昭和25年卒(大阪府泉南郡)
北村 誠志様昭和45年卒(岐阜県各務原市)
藤田 光雄様昭和15年卒(東京都東村山市)
後藤 豊様昭和15年卒(東京都東村山市)
赤井 昭夫様昭和19年卒(三木市)
飯田 八四郎様昭和11年卒(川崎市)
福永 勝様昭和33年卒(大阪市)
安田 正光様昭和20年卒(大阪市)
山本 敦生様平成7年卒(大阪市)
吉田 鶴松様昭和3年卒(八尾市)
丸山 光次様昭和28年卒(大阪市)
米田 耕作様昭和39年卒(大阪市)
北村 雅穂様F.T.A(会長)堺市
渡邊 辰夫様昭和11年卒(大阪市)
森下 猛様昭和13年卒(大阪市)
足立 好一様昭和24年卒(大阪市)
井内 博見様昭和25年卒(大阪市)
浅野 栄三様(昭和11年卒)大阪狭山市

松村 光三様(昭和34年卒)所沢市
松田 悦寛様昭和58年卒(大阪市)
榊原 正躬様昭和16年卒(大阪市)
村瀬 良勝様昭和11年卒(尾島市)
田中 弘義様昭和22年卒(八尾市)
上野 寅次郎様昭和24年卒(八尾市)
久米 雅男様昭和24年卒(大阪市)
曾根 忠様昭和15年卒(枚方市)
北村 弘一様昭和2年卒(宝塚市)
東川 博様昭和20年卒(大阪市)
伊丹 啓次様(大正14年卒)豊中市
原 琢三様(昭和10年卒)大阪市
吉田 末廣様昭和16年卒(大阪市)
川田 峰夫様昭和20年卒(豊中市)
岩田 実様昭和12年卒(大阪市)
吉川 太一様昭和50年卒(堺市)
小林 五郎様昭和12年卒(東大阪市)
宮川 創様平成5年卒(堺市)
木下 春俊様昭和7年卒(高槻市)
宮本 清様昭和16年卒(高槻市)
吉田 隆様昭和11年卒(和歌山市)
小泉 博之様昭和17年卒(大阪市)
立谷 武夫様昭和8年卒(堺市)
小山 桂之祐様昭和27年卒(大阪市)
河本 勝様元(教員)吹田市
吉村 守正様昭和35年卒(大阪市)
山本 和雄様昭和12年卒(藤井寺市)
大矢 五朗様昭和8年卒(大阪市)
宮本 繁明様(昭和42年卒)大阪市
池田 義彦様(昭和50年卒)柏原市
森 英明様(昭和16年卒)大田市
山上 清様(昭和24年卒)高槻市
三木 眞様(昭和43年卒)大阪市
木村 佐喜夫様(昭和14年卒)奈良市
川崎 晋平様(昭和2年卒)高石市

青木 誠一様(昭和18年卒)新潟県北蒲原郡
新山 芳豊様(昭和21年卒)北海道石狩町
塩田 好一様(昭和4年卒)大阪市
原 一雄様(昭和14年卒)愛知県大府市
伊丹 時男様(昭和14年卒)大阪市
樋口 淳様(昭和52年卒)大阪市
池田 勇様(昭和58年卒)堺市
梅辻 文子様(昭和9年卒)大阪市
松田 利明様(昭和20年卒)箕面市
中村 凡夫様(昭和16年卒)東京都杉並区
北風 俊雄様(昭和17年卒)堺市
辻川 潤一様(昭和9年卒)東大阪市
大塚 護様(平成元年卒)堺市
三嶋 恒夫様(昭和43年卒)大阪市
中谷 敏郎様(昭和51年卒)八尾市
井原 敏己様(昭和45年卒)堺市
和田 貞夫様(昭和19年卒)堺市
青山 明様(昭和36年卒)福岡市
紅粉 信夫様(昭和14年卒)豊中市
関岡 一郎様(昭和15年卒)岡山市
井上 邦美様(昭和54年卒)堺市
木原 宏之様(昭和50年卒)吹田市
笠原 幸雄様(昭和3年卒)伊丹市
尾川 龍二様(昭和31年卒)大阪狭山市
森 進一様(昭和15年卒)神戸市
森 芳峰様(昭和6年卒)大阪市
山口 龍夫様(昭和45年卒)大阪市
松井 留雄様(昭和11年卒)宇都部市
北島 利一郎様(昭和7年卒)神戸市
柳瀬 芳郎様(昭和16年卒)大阪市
福永 勝様(昭和33年卒)大阪市
山内 隆司様(昭和20年卒)八尾市
大矢 隆史様(昭和40年卒)大阪市
橋本 利行様(昭和45年卒)和泉市
鈴木 良行様(昭和20年卒)大阪市
杉原 真己様(昭和13年卒)鳥取県鳥取市
吉田 鶴松様(昭和3年卒)八尾市
岡本 晴雄様(昭和19年卒)貝塚市
中野 伊勢夫様(昭和11年卒)奈良市
細井 脩様(昭和27年卒)和泉市
斎藤 弥寿夫様(昭和18年卒)大阪市
南村 政春様(昭和11年卒)大阪市
浅原 慶久様(昭和62年卒)和泉市

久保 義男様(昭和22年卒)堺市
川本 兼義様(昭和11年卒)堺市
加古 敏次郎様(大正15年卒)豊中市
西原 健二様(昭和58年卒)堺市
岡本 博様(昭和11年卒)三木市
中島 武三様(昭和10年卒)大阪市
太田 隆之様(校長)長岡市
今井 四郎様(昭和49年卒)福岡県粕屋郡
仲本 美代様(昭和13年卒)大阪市
北村 浩之様(昭和63年卒)堺市
村瀬 良勝様(昭和11年卒)尾島市
柴田 猛様(昭和11年卒)岡山県備前市
杉田 均様(昭和40年卒)東京都足立区
奥田 勝典様(昭和31年卒)大阪市
吉田 勝彦様(昭和47年卒)及北郡忠岡町
金谷 道雄様(昭和26年卒)京大津市
平成七年度寄付者 百十六名
金額百六十五万九百二十三円也

●平成八年度入金分(平成八年四
月一日～平成八年十二月三十一日
までの分)
(到着順)

大引 豊治様(昭和40年卒)堺市
川口 良造様(昭和23年卒)大阪市
野野 昇様(昭和15年卒)西宮市
友田 友文様(昭和41年卒)和泉市
友田 彰直様(平成5年卒)和泉市
大田 良雄様(昭和15年卒)沖繩県那覇市
辻 裕一様(平成2年卒)堺市
山田 久夫様(大正14年卒)高石市
数田 政宏様(昭和50年卒)南河内郡美原町
橋本 浩行様(昭和56年卒)大阪市
宇治丸 要様(昭和17年卒)大阪市
福島 正男様(昭和20年卒)堺市
植山 敏次様(昭和8年卒)高田林市
西田 孝様(昭和13年卒)大阪市
中村 叔夫様(昭和20年卒)大阪市
葛籠 利夫様(昭和10年卒)大阪市
岡本 利雄様(昭和41年卒)大阪市
小林 昌平様(大正15年卒)大阪市
油谷 岩平様(昭和11年卒)横濱市
今井 義明様(昭和13年卒)横濱市
上杉 茂樹様(昭和18年卒)東京都台東区

久保 哲男様(昭和14年卒)東京都文京区
松下 長史様(昭和19年卒)横濱市
金谷 力様(昭和21年卒)東京都杉並区
金谷 昭三様(昭和25年卒)千葉県津田市
松村 光三様(昭和34年卒)所沢市
寺田 智治様(昭和40年卒)鎌ヶ谷市
中野 利雄様(昭和5年卒)東大和市
中島 寧綱様(昭和10年卒)松戸市
阿部 卓爾様(昭和11年卒)鎌倉市
金谷 正己様(昭和16年卒)市川市
丹波 喜義様(昭和16年卒)東京都世田谷区
山田 能生様(昭和34年卒)東京都葛飾区
岩坪 勝様(昭和34年卒)埼玉県川口市
白根 晶吉様(昭和43年卒)東京都北区
吉田 秀勝様(昭和25年卒)横濱市
本田 重彦様(昭和25年卒)奈良市
岸野 幹三様(昭和14年卒)岡山市
森脇 幸夫様(昭和9年卒)大阪市
佐藤 末夫様(昭和23年卒)大阪市
藤本 末夫様(昭和23年卒)大阪市
小谷 誠一様(昭和17年卒)東大阪市
和田 俊雄様(昭和11年卒)奈良県葛城町
染野 保様(昭和12年卒)大阪市
龍本 仙太郎様(昭和25年卒)大阪市
藤村 正明様(昭和11年卒)堺市
井内 博見様(昭和13年卒)大阪市
森下 正吉様(昭和10年卒)新宮市
中谷 忠男様(昭和10年卒)新宮市
北村 裕次様(昭和63年卒)堺市
柳原 正躬様(昭和16年卒)大阪市
飯田 八四郎様(昭和11年卒)川崎市
伊丹 啓次様(大正14年卒)豊中市
金谷 道雄様(昭和26年卒)京大津市
助松 勇三郎様(昭和27年卒)京大津市
上野 寅次郎様(昭和32年卒)八尾市
池島 康夫様(平成4年卒)大阪市
松本 公司様(昭和53年卒)大阪市
松田 和人様(昭和41年卒)大阪市
三宅 英宗様(昭和32年卒)大阪市
高野 光男様(昭和11年卒)大阪市
平成八年度寄付者 六十二名
金額六十三万二千円也

平成九年度成器学園同窓会への募金につきご支援方お願い

平成八年二月発行の成器学園同窓会報「学芸」にて平成八年度の募金につきご協力方お願い致しましたところ、平成八年二月一日以降平成九年一月十日現在、百四十八名、金額百五十三万六千九百二十三円のご芳志をお寄せ頂きました。ここに厚く敬意を表し、感謝申し上げます。

同窓会活動の活発化、組織の強化、運営の円滑化が強く求められていますが、そのためには同窓会自体が堅固な存立基盤をもたねばなりません。同窓会役員委員会の活発な活動を原動力に、各卒業年次各クラス、地区支部、各職域、各クラブOB会等の幹事、世話役と連携を密にする全校的ネットワークの確立が必要と思われまます。諸活動の活発化には財政的裏付けが不可欠ですが、残念ながらその基盤は決して十分なものとはいえません。

同窓生の心のふるさと母校と同窓生とを結ぶ絆は年一回発行の同窓会会報「学芸」しかありません。同窓会としてこの会報を同窓生に配布することで、母校への関心を高めて頂き、同時に同窓会活動にもご理解とご協力を得たいと考えて参りました。

この会報を同窓生全員に配布するには約三百万円の費用を要します。同窓会の年間経常収入の二倍に当るため、同窓会だけの会計では賚りません。そのため昨年は学園から二百万円、今年は百万円の資金援助を受けて、辛うじて会報発行に漕ぎつづけている状況です。

少子化時代を背景に学園経営が厳しさを増すなか、いつまでも経済的負担をお願いし続ける訳にはいきません。われわれ同窓生の力でこの負担に耐え、会報発行を続けていくために平成九年度も同窓生各位のご寄付をお願いする次第であります。

今年度からは別途同窓生各位に特別年会費(年間二千元)をご負担頂くためのお願いの文書を同封しております。このようなご負担に加えての募金協力の依頼で誠に恐縮ですが同窓会財政の健全化、同窓会活動活発化、及び会報継続発行のため、何卒ご理解を賜わりご協力ご支援の程、お願い申し上げます。

募金先 成器学園同窓会

平成九年度募金事業本部
連絡先 大阪市住吉区長居一丁目
千53 四番十五号
成器学園同窓会

本部長 渡壁辰夫
委員 田仲弘義 東川 博
米田耕作 北村裕次
松田和久

東住吉区の皆様

この度会報作成にあたり
米田耕作副会長(高校16期卒業
城南学園高校教諭)は組織強化と送別節約のため東住吉区の卒業生名簿を作成され会報を手配されることになりました。東住吉区の卒業生の皆様にはなにとぞ同窓会にご協力とご支援を賜りますようお願い致します。

組織委員長 大引豊治
(高校17期卒業)

乞うご期待!!

第3回 成器39会 同窓会を懐かしい恩師を迎え7月頃に開催致します。お楽しみに
(高校16期昭和39年卒業生の同窓会)

平成七年度 決算報告

◎平成七年四月一日より平成八年三月三十一日までの収支決算は左記の通りです。毎年卒業生には卒業証書入筒・同窓会幹事に委嘱状と記念品を贈呈しています。活躍しているクラブ活動には文化部(吹奏楽部の御堂筋パレード参加・詩吟部全国高等学校総合文化祭(一十

年連続出場)運動部(バトミントン部・空手部・陸上部・ソフトテニス・フイギヤースケートのインター杯・近畿大会・全国大会に出場)等々には同窓会より金一封を贈り活躍に協力しています。

◎平成八年度の募金は平成八年四月一日より平成八年十二月三十一日迄の分寄付者六十二名で金額は六十三万二千元のご寄付をいただいております。

平成七年度 収支決算書

(自平成七年四月一日～至平成八年三月三十一日)

収入の部

科目	予算額	決算額	対比較増△減	備考
会費	1,512,000 ^円	1,500,000 ^円	△ 12,000 ^円	平成七年度卒業 500名
預金利息	120,000	1,952	△ 118,048	銀行普通預金の利息
特別会計剰余金	100,000	170,039	70,039	
雑収入	0	24,560	24,560	名簿代金他
寄附金	0	0	0	
広報費	600,000	510,000	△ 90,000	会報広告料
新金事業本部	0	500,000	500,000	
前期繰越金	2,312,979	2,312,979	0	
合計	4,644,979	5,019,530	374,551	

支出の部

科目	予算額	決算額	対比較増△減	備考
役員会費	150,000 ^円	74,953 ^円	△ 75,047 ^円	定期総会経費
会費	50,000	42,699	△ 7,301	
庶務費	550,000	825,553	275,553	別紙明細・中学校新校舎新築祝
印刷費	400,000	1,321,988	921,988	会報及び各会合案内状印刷代
通信費	250,000	86,447	△ 163,553	郵送料・電話料等
消耗品費	20,000	30,746	10,746	文房具・事務用品購入費等
事務費	180,000	0	△ 180,000	事務局長手当
寄贈金	350,000	225,000	△ 125,000	在校生クラブ活動奨励金
記念品費	120,000	87,241	△ 32,759	卒業証書入筒代・幹事記念品
通借	250,000	50,217	△ 199,783	
交子	100,000	0	△ 100,000	
雑費	70,000	24,421	△ 45,579	
(経費小計)	(2,490,000)	(2,769,265)	(279,265)	現金 118,170
次期繰越金	2,154,979	2,250,265	95,286	預金 2,132,095
合計	4,644,979	5,019,530	374,551	

財産目録

基本財産	同窓会基金による基金		
	なほ銀行河内野支店	定期預金	3,547,920円
	大阪銀行西田辺支店	普通預金	1,030,531円
	郵便振替口座長居西局		431,203円
	現金		30,000円
		合計	5,039,654円
繰越金明細	現金		118,170円
	さくら銀行西田辺支店	普通預金	2,132,095円
		合計	2,250,265円

平成9年度 同窓会総会及び懇親会

— お待ちしてま〜す! —

日時：4月19日(土)

会場：●総会 本校会議室 2時より

☎06-693-6301

●JR南船場 朝ヶ丘駅より徒歩8分 ●地下鉄御堂筋線 西田辺駅より徒歩8分

●JR桜和線 長居駅より徒歩8分 ●地下鉄御堂筋線 長居駅より徒歩8分(2出口)

●懇親会 長居パークホテル 4時より

☎06-608-1117

会費 ¥5,000

●地下鉄御堂筋線 長居駅より徒歩2分

- 出席の方は同封はがきにてお知らせ下さい。
(総会出席出来ない方は、懇親会だけでも気楽にご出席下さい。)
- 懇親会の出席者にはお楽しみ参加賞を用意しております。

●同窓会よりお願い●

成器学園同窓会は昭和49年に創立され卒業生は27,351名を越えました。年1回の発行ですが経費も年々増加し、特に郵送料の値上げで赤字状態です。振込用紙2通を同封いたしますので、あなたと同窓会のためにぜひ特別年会費と募金のお振込をお願い致します。

※会報に関して御意見をお聞かせください。

あわせて住所変更、クラス会開催などもお知らせいただければ幸いです。

※〒558 大阪市住吉区長居1-4-15

成器学園同窓会宛 ☎06(693)6301 FAX06(693)5172


あ と が き

同窓会会報「学芸」第二号を茲許お届け致します。「学芸」は郵送料の関係からページ数が多くとれません。そのような制約の中、学園広報に関するページも精一杯とり、学園の現況をお知らせすることが出来ました。

本号では、大阪学芸高校に校名改称後学園の教育水準を高めるべくご努力頂いている第十一代校長安永和夫先生と同窓会長との対談記事や平成七年度平成八年度同窓会へのご寄付を頂戴した方々のご芳名録を掲載し深く感謝の意を表しますと共に平成九年度も引続きご支援をお願いする一方で、別紙特別年会費の納入についてもお願いさせて頂きました。

同窓会財政は会報記載の収支決算、財産目録の通り、未だ十分なものはいえない状況にあります。会報を同窓生全員(郵送可能な方約一万六千人)に配布するには約三百万円を要します。昨年度会報第一号発行に際して学園より二百万円、今回の第二号発行につきましても百万円の資金の応援を得て発行に漕ぎ着けている現状です。又一方「広告欄」「マライフ欄」に登場の皆様にも夫々ご寄付(三万円)を頂き、会報発行にご協力を頂きました。本欄をお借りして厚く御礼申し上げます。尚会員の移動により住所不明で返却される数も少くありませんので、住所変更等はご面倒でも同窓会事務局までお知らせ下さい。

(井内)

<p>同窓会名誉会長 伊丹啓次 (大正14年・13期卒業)</p> <p>株式会社伊丹ビル社長・成器学園顧問 〒561 豊中市豊南町東3-14-4 TEL.06(334)4616</p>	<p>同窓会会長 成器学園評議員 井内博見 (昭和25年・高校2期卒業)</p> <p>福祉産業株式会社 取締役社長 大阪市中央区東心斎橋1丁目1番12号 TEL.(06)252-5277 FAX(06)245-1353</p>	<p>株式会社 渡壁 (マンション:エトワール弁天)</p> <p>代表者 渡壁辰夫 (元校長 昭和11年・2部22期卒業)</p> <p>〒552 大阪市港区市岡元町3-4-5 TEL.(06)583-4929・0674</p>	<p>東部成器会 会長 丹波喜義 (昭和16年・1部36期卒業)</p> <p>東部成器会事務局 〒359 埼玉県所沢市小手指町1-25-1-224 松村光三内 TEL.(0429)26-7562</p>
<p>昭和21年卒業・22年卒業・42期生 皆々様お元気ですか…同窓会総会4月19日!</p> <p> 木村雅昭 松尾優功 宮武功博 塩瀬博</p> <p>サン・キング株式会社 社長 田仲弘義 TEL.06(631)0565 FAX06(631)4426</p>	<p>株式会社 中央写真 常務取締役 金谷道雄 (昭和26年・高校3期卒業)</p> <p>コピーサービス 晒画焼付、電子複写、カラーコピー 本社 〒550 大阪市西区柳本町1丁目6-14 TEL.(06)443-1871 FAX(06)441-7722</p>	<p>社会福祉法人いわき学園理事長 財団法人住吉名勝保存会理事長 高野光男 (昭和11年・2部22期卒業)</p> <p>〒559 大阪市住之江区南船場4-6-29 TEL.(06)681-1300</p>	<p>しょうせきしゃ 株式会社 松碩社</p> <p>取締役社長 中戸健一 (昭和36年・高校13期卒業)</p> <p>本社 〒557 大阪市西成区聖天下2-11-13 TEL.06(652)4434 FAX06(654)1255</p>
<p>成器高校指定業者 (有)オオサカユニフォーム</p> <p>〒588 大阪市住吉区大須2-6-27 TEL.(06)695-3929 TEL.(06)695-1599 FAX.(06)693-9716</p>	<p>電源開発株式会社 親子火力発電所 構内 洋光産業株式会社 代表取締役 飯田八四郎 (昭和11年・1部31期卒業)</p> <p>本社 横浜市磯子区新磯子町37-2 〒235 TEL.(045)755-1923 FAX.(045)755-1923 川崎事務所 川崎市川崎区小田3-15-13 〒210 TEL.(044)333-7184</p>	<p>***** SUZU PACKは 包装のバイオニアです。 食品、薬品、工業品、その他。</p> <p>株式会社 スズパック TEL.(06)536-4477 FAX(06)536-4433 昭和41年・高校18期卒業 松田和人 *****</p>	<p>美術印刷・紙器製品 インターネット提案・製作・登録 株式会社ヒラックス 代表取締役 上野寅次郎 (昭和32年・高校9期卒業)</p> <p>〒542 大阪市中央区上本町西5-2-8 TEL.06(768)9551 FAX06(768)9555</p>

成器学園同窓会
会報「学芸」

●発行日：平成9年2月20日
●編集：同窓会企画部
●発行所：〒558 大阪市住吉区長居1-4-15
TEL.06(693)6301 FAX06(693)5172

■表紙絵及びイラスト 作家プロフィール
はらたくみ イラストレーター・日本グラフィックデザイナー協会会員
テレビ出演等々各所で活躍中
(原 琢三)

※表紙のイラストは自然の過去、現代、未来と宇宙空間の描写で、21世紀に向けての情報キャッチ、未来への躍りをき免脱を表現しました。